



# 「友よ 我等は」

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

## 学び続けるよ、我等は。

2学年主任 古屋 彰士

生徒のみなさん、第3回定期試験お疲れ様でした。試験が終わってホッとしている人が多いことと思います。11月12日の学習強化週間開始から今日までの15日間（半月にわたる長丁場）、自分の取組状況はいかがだったでしょうか。修学旅行を励みに頑張れた生徒、取り組む教科を変えて気分転換を図るなど自分なりに工夫して取り組めた生徒など様々だと思いますが、あくまで定期試験は通過点にすぎません。三者懇談で各自の目標を再確認できたかと思いますので、その目標達成に向けてきちんと振り返りを行い、今日も、明日も、明後日も日々学び続けていきましょう！今のみなさんは15日前のみなさんよりも確実に学力が高まっています。ここで歩を止めてしまってはもったいない！

（ちなみに明日、AkBでTHE善学習会@会議室を実施しますので、是非参加を。）

みなさんもお承知のとおり、学びは机上だけで行うものではありません。むしろ、机上での学び以外の学びの方が大切だと言えるかもしれません。我等の目前に控えている修学旅行、これこそまさに多くの学びを得る絶好の機会だと思います。本校の修学旅行には次の3つの目的があります。再確認のうえ、事前学習で学んだことを生かしてより多くのことを体験し、感じ、考える4日間にしましょう！

1. 沖縄の自然・文化・伝統を体験することで、沖縄への理解を深め、豊かな情操を養う機会とする。
2. 沖縄の戦跡や資料館を訪れ、歴史理解を通して、平和について深く考える機会とする。
3. 集団生活を通して級友・教師との結びつきを深めると同時に、沖縄の人々との心の交流を重視し、コミュニケーション能力の向上や他者への配慮など、豊かな人間性を醸成する機会とする。

保護者の皆様におかれましては、お忙しい中、三者懇談へのご協力ありがとうございました。修学旅行に際しましても、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。本日、修学旅行に係る生徒の送迎および保険証の取り扱いについて、お知らせを配付しましたので、ご確認をお願いします。

### 12月の主な行事予定

12月 5日（金） ▲上カセット

① 修学旅行荷物搬入 ⑤修学旅行結団式・MHR

7日（日） 修学旅行1日目

8日（月） 修学旅行2日目

9日（火） 修学旅行3日目

10日（水） 修学旅行4日目

11日（木） 2年休業日（11/7の振替）

15日（金） ▲上カセット 教育相談

22日（月） ▼下カセット

24日（水） ①～③授業・大掃除・納め式/全校集会・学年集会・LHR

25日（木）～1月5日（月）冬季休業

12月29日（月）～1月3日（土）は完全閉校

1月 6日（火） 後期中間試験（1・2年）・共通テストシュミレーション（3年）

7日（水） 後期中間試験（1・2年）・共通テストシュミレーション（3年）

10日（土） 土曜講座





## 【2学年リレー通信】

### ひとりごと

2学年主任 古屋 彰士

今月のリレー通信は誰だろう？と楽しみに？裏面をご覧ください。みなさん、申し訳ありません。裏面も私です。「またお前かよ」という声は心の内にとどめていただき、引き続きお読みいただけるならば、恩倖、これに過ぎたるはございません。

先週、愚娘（小4）に「なんかさあ、最近お父さんひとりごと多くない？」と言われました。誰も相手にしてくれなくなったからだよ、という思いと同時に、ひとりごとをひとりごとのように文章として表現できたらおもしろいかもしれない、という思惑が芽生えてきました。（授業でレトリックを扱っていたことも少なからず影響したかもしれません。）

ということで、だったら今回はひとりごとのように文章を書いてみよう！と意気揚々とキーボードに手をのせたものの...これがどうしてもなかなか難しいのです。なぜだと思います？

答えは...どうしても読み手を意識してしまい、実際のひとりごとのように自由にはいかないもどかしさを覚えてしまうのです。辞書でひとりごとの意味を調べてみると、「聞く相手がいないのに、ひとりでものを言うこと」とあるのですが、文章にしようすると、この「聞く相手がいないのに」という状況に身を置くことが非常に難しいのです。自由に言いたいことを言えばいいだけじゃん、と思うかもしれませんが、「一般意志」に基づくルールを守り、倫理的に善いとされるように表現しなければ、みなさんからの承認は得られないだろうと思ってしまうのです。まさに、自由と「行為の承認」の葛藤の中でもがき苦しみ、どうしても作画的な文章になってしまうのです。

そこで、ひとりごとを「自分の考えや気持ちを整理するつぶやき」と勝手に仮定し、作画的ではありませんがひとりごとを以下に続けます。

先日、久しぶりに実家を訪れると、80を過ぎた父の周りがこれまで全くの無縁であったはずの漢字に関する書籍で溢れていました。父は研究者でも読書家でもありません。そんな人が説文解字にはじまり、諸氏の専門書まで買い揃えていました。「どうした？」と戸惑う息子に対して「漢字には目に見えない力が宿っている」「新しい漢字を創ろうと思ってな」「少しの金と時間があるから勉強してるんだハハハ」...と。そんな父の様子から、息子はいくつかの「ひとりごと」をつぶやきました。

（独言1）「好きこそ物の上手なれ」とは先人の知恵の結晶。勉強でもスポーツでも対象への愛情に勝るものはない。新たなことに挑戦したり、既に完成したものを壊してやり直したりする力が身に付き、年齢に関係なく成長し続けることができる。目の前にいる生徒達にも「好き」という思いを...あと自分自身にも。

（独言2）中島敦の短編「文字禍」にある文字の霊の一節を思い出す。「一つの文字を長く見詰めている中（うち）に、何時しかその文字が解体して、意味の無い一つ一つの交錯としか見えなくなって来る。単なる線の集まりが、何故、そういう音とそういう意味とを有つことが出来るのか、どうしても解らなくなってくる。」まさにゲシュタルト崩壊！板書の際、急に漢字が出てこなくなって焦るのも、父が漢字にとりつかれたのもこの「文字の霊」の仕業にしておこう。

（独言3）漢字（文字）を手書きする機会が少なくなった。もう少しで年賀状を作成する時期になるが、パソコンで作成するようになって久しい。そんな中、手書きの年賀状に出遭うと、言葉そのものの温かさとその人ならではの筆跡とが相まって「ほっこり」させられる。「ほ」のつくオノマトペ「ほのぼの」「ほんわか」「ほかほか」...などはみな心温まるいい言葉だと思うが、今のところ「ほっこり」が一番しっくりくる。そういえば、私のひとりごとにはこのオノマトペの類が多いような気がする。何とも言い難い状況や心情を抽象化して整理してくれる便利グッズだ。

最後に、本当は、生徒のみなさんの活躍の様子を記すべきだったのに、己の乏しい文業のほうを気にかけているような男だから、だれにも相手にされず、ひとりごとをつぶやくのです。

